

文献紹介

被差別部落問題関係 2 次文献

——労働運動・社会運動・社会主義——

小 林 茂^{*}

はじめに

第61回通常国会で「同和对策事業特別措置法」が成立し、政府が同和对策10カ年間計画を始めたころから、同和教育・同和行政に対する論争が激しく展開され、被差別部落（以下、部落と略称）問題に関する文献が多く出版された。ことに1971年が明治解放令の100年に当たるとして、一層、明治・大正期の文献の復刻や、1922年から始まる水平社運動の思い出や関係資料編集の成果が続々と刊行されて、管見に触れたものだけでも数十種にのぼる。その他、各種の研究機関の紀要や雑誌に載せられた論文・報告・資料はおびただしい数になろう。これは、同和教育や同和問題が、教育・行政の上で重要視されてきたことを示すものでもある。このうち、京都の部落問題研究所の出版にかかる文献と、大阪の部落解放研究所による出版書が圧倒的に多いのは、いうまでもない。

今、これらの文献を網羅することは私はできず、また、部落問題の如き政

治的・経済的・社会的、多方面の分野にわたるものを、一つの分類項目に整理することも、なし得られるところではない。そこで、本文献紹介には、入門的な図書の紹介と、戦前・戦後を通じての重要と思われる主要図書のうち、主として社会運動・労働運動に重点をおいて摘出した。この他の文献としては、部落解放に重要な同和（解放）教育関係文献や、政府や地方自治体の手による手引き的・行政報告的な刊行物類も少なくないのであるが、この分野のものはすべて割愛した。主として座右の文献や大阪の部落解放研究センター付設の図書室などを利用してまとめたものであるから、必見の重要問題を落としているのではないかと恐れている。

なお、この研究には、その研究に対する基本的姿勢が、単に学究的態度を堅持するにとどまらず、国民的課題としての同和問題を解決すべき責任を担っていることを忘れてはならないことである。もし、その姿勢にこうした自

^{*} こばやし しげる 名古屋学院大学教授（日本経済史）

覚をもたず、いたずらに知識欲の充足に終わるものであれば、大いなる指弾を受けるであろう。

1 総合的資料目録

まず、総合的資料目録4点を掲げる。
部落問題研究所編『部落問題研究の手引——研究の手引・文献目録・年表』
部落問題研究所 1957 pp.160 A 5判

57年段階までにおける戦前・戦後の単行本・文芸作品・雑誌新聞などの主要論文・パンフレット類などを網羅されている。年表は1867(慶応3年)から1957年4月までで、研究者にとって集大成された資料目録として最適である。

同志社大学人文科学研究所『部落問題文献目録』同志社大学人文科学研究所資料部 1969 pp.81 B5判
書誌・新聞・雑誌・年鑑・研究一般・歴史(部落史、法制関係、社会・文化・芸能関係など)、政治・行政(融和事業・社会事業)、運動(融和運動・融和諸団体・水平運動・解放運動・社会運動(農民運動を含む))、教育・労働・産業・調査・統計(総合調査・人口・住宅、文学・その他)・関係文献一覧・追加資料・書名索引などあり、同研究所に所蔵する文献目録である。

『部落問題関係文献資料目録』部落解放研究所 1971 pp.317 A5判
大阪府市および近辺府県にある図書

館・大学・学校・研究所・行政機関に所蔵する資料を機関ごとに分類したものの、70年12月末現在での所蔵目録である。とくに大阪市教育研究所・大阪市大図書館・大阪府立図書館・部落解放研究所・立命館大学人文科学研究所・京都大学経済学部図書館閲覧室及び上野文庫・同志社大学人文科学研究所の蔵本が多い。

『立命館大学所蔵部落問題資料目録・部落問題関係文献目録』 1974 pp.89 B5判

戦前・戦後の単行本・逐次刊行物・叢書索引と、部落問題関係文献目録として、書誌・文芸・歴史・行政・研究一般・解放運動・教育・産業労働・実態調査・追録資料・著者索引・収録誌名一覧と分けて載す。

なお、年表としては、次の単行本が詳しい。

大阪市教育研究所編『部落解放と教育の歴史』一年表編 大阪市教育研究所 1972 pp.549 A5判(注、1867(慶応3年)～1971(昭和46年))

2 入門的図書

同和問題が注目されたのは、既に明治初期からで新聞紙上や雑誌・著書・文芸作品などに出ているが、一つの学問として取り上げたのは、大正期になってからで、まず歴史家で、次いで法学者・社会学者・経済学者と広まった。この傾向は、戦後になってもほぼ同様

の傾向をとった。1951年秋の京都におけるオール・ロマンス事件と翌年春の和歌山における西川県会議員の差別発言事件の勃発により、社会問題として大きな反響を呼び起こし、まず歴史家が解放運動に協力し、これに次いで社会学者・法学者・経済学者らが加わって、部落の実態・歴史的究明から解放への方途をさぐるとういういき方をとった。したがって、入門的な図書は部落史関係・解放運動史関係の図書がその役をになうことになった。

まず、戦前のものをあげる。

河村竹三郎『部落の叫び』 東京北村書店 1921 pp.245 B 6判

三好伊平次『同胞諸和の道』 東京隆文館 1923 pp.282 B 6判

菊池山哉『穢多族に関する研究』 東京三星堂 1923 pp.400 A 5判

高樹貞樹『特殊部落史』（『特殊部落一千年史』） 京都更生閣 1924 pp.300 B 6判（注）第1編—特殊部落の歴史的考察・第2編—特殊部落の現在と水平運動

三好伊平次編『融和问题論叢』 中央融和事業協会 1929 pp.287 B 6判（注）「樊噲夢物語」から佐野学「特殊部落解放論」・有馬頼寧「総ての人の握手」など39編

全国水平社広島県聯合会『広島県水平運動史』 1930 pp.190 B 6判

三好伊平次『同和问题の歴史的研究』 同和奉公会 1943 pp.434 A 5判（注、部落問題資料文献叢書第6巻

に収む）

戦後、1950年以後、次第に文献の紹介や著書が多くなり、ことに同和对策事業特別措置法の施行や水平社創立50年を迎えた1972年前後には、おびただしい単行本が出版された。水平社運動の思い出や成果、さらに研究者の幅も広くなり、また地区出身の無名者の手による苦難の生涯を語る本も出るようになった。その代表的なものは、次の図書であろう。

松本治一郎『部落解放への三十年』

近代思想社 1948 pp.225 B 6判
北原泰作『屈辱と部落の歴史』 北大路書房 1950 pp.218 B 6判

菊池山哉『別所と俘囚』 東京史談会 1951 pp.180 A 5判

部落問題研究所編『部落の歴史と解放運動』（北山茂夫・林屋辰三郎・奈良本辰也・藤谷俊雄・井上清共同執筆） 部落問題研究所 1954 pp.300 A 5判（注）戦後初めての系統的通史の学問的成果である。

奈良本辰也編『未解放部落の歴史と社会』 日本評論社 1956 pp.392 A 5判 第1節—山村部落として滋賀県坂本部落、第2節—漁村部落として広島県東浜（旧鹿川町）部落を取り上げた。

部落問題研究所『人権と部落問題』 部落問題研究所 1959 pp.286 新書判

井上清『部落問題の研究——その歴史と解放理論』 1962 pp.412 A 5

- 判（注）1867～1959の年表を付す。
- 渡辺広『未解放部落の史的研究』 吉川弘文館 1963 pp.382 A 5 判
（注）和歌山県地方の地方史料を使って中世末～近世初期の部落の成立問題を論じている。
- 渡辺実『未解放部落史の研究』 吉川弘文館 1965 pp.938 A 5 判
- 菊池山哉『長吏と特殊部落の研究』 東京史談会 1966 pp.629 A 5 判
- 落合重信『神戸の未解放部落』 神戸部落史研究会 1968 pp.84 A 5 判
- 井上清『部落の歴史と解放理論』 田畑書店 1969 pp.428 B 6 判
- 藤谷俊雄『部落問題の歴史的研究』 部落問題研究所 1970 pp.462 B 6 判
- 部落解放研究所編『部落解放を全ジャーナリストに』 部落解放研究所 1971 pp.300 A 5 判
- 朝田善之助『解放運動の基本認識』 部落解放同盟中央出版局 1972 pp.366 B 6 判
- 部落問題研究所編『近代日本の部落問題一歴史編』 部落問題研究所 1972 pp.305 B 6 判
- 大阪市教育研究所編『部落解放と教育の歴史』 一本編 大阪市教育研究所 1972 pp.664 A 5 判 （注、明治解放令から現在までの解放運動史である。教育史的立場ながら、各分野にわたって論述されている。）
- 平野一郎『人権——差別からの解放』 明治図書出版株式会社 1973 pp.281 B 6 判
- 三橋修『差別論ノート』 新泉社 1973 pp.269 B 6 判
- 池田町（徳島県）教育委員会・池田町同和教育推進協議会編『改訂版 池田町（注、徳島県）を中心とした部落史編年資料集』 池田町同和教育推進協議会 1973 pp.535 B 5 判
- 中西義雄『部落解放運動の歴史と理論』 部落問題研究所 1974 pp.465 B 6 判
- 同和教育関係の図書、文献のなかで入門的・啓蒙的なものはあるが、省略した。以上には、同和教育の歴史的な研究成果のなかから、部落問題の解決を目ざす理論を含むものが多い。
- なお、水平社創立50年を迎えた70～74年代に、水平社運動史や水平社運動の文献が多く出た。次に、そのうち、主なものを列挙する。
- 『水平』 世界文庫 1969 B 6 判
（注、部落問題資料文献叢書第3巻、「よき日のために」・「水平」第1・2号を収む）
- 『選民』 世界文庫 1969 pp.206 B 5 判（注、部落問題資料文献叢書第7巻、全国水平社青年同盟機関紙「選民」（第1号～第18号）、附録として「水平社リーフレット」・「中和水平月報」を収む）
- 『水平新聞』 世界文庫 1972 pp.312 A 4 （注、部落問題資料文献叢書第4巻、第1次水平新聞（1924・6月～10月）・第2次水平新聞（1925・

- 9月～1929・3月）・第3次水平新聞
(1929・12月～1932・7月)・第4次
水平新聞(1934・11月～1937・2月),
付録として水平新聞奈良附録・水
平月報など多数含む)
- 『水平運動論叢』 世界文庫 1971
pp.374 B 6判(注, 部落問題資料
文献叢書第8巻, 初期水平運動論・
水平運動の思い出・宣言綱領などを
収む)
- 秋定嘉和・西田秀次編『1920年代——
水平社運動』 神戸部落史研究会
1970 pp.567 B 5判
- 渡部徹・秋定嘉和編『部落問題・水平
運動資料集成』 三一書房 1973～
74 B 5判
- 第1巻 1922～27 1973 pp.385
第2巻 1927～32 1974 pp.651
第3巻 1933～1944 1974
pp.1030
- 部落問題研究所編『水平運動史の研
究』 部落問題研究所 1971～73
A 5判
- 第1巻 年表編 1971 pp.445
第2巻 資料編(上)
1971 pp.495
第3巻 資料編(中)
1972 pp.494
第4巻 資料編(下)
1972 pp.495
第5巻 研究編(上)
1972 pp.510
第6巻 研究編(下)
1973 pp.519
- 奈良県水平社運動研究会編『奈良県同
和事業史』 奈良県水平運動研究会
1970 pp.423 A 5判
- 山本茂『広島県社会運動史』 部落問
題研究所 1970 pp.882 A 5判
- 部落解放同盟編『部落解放運動五十年
史年表(草稿)』 部落解放同盟中
央本部 1971 pp.330 A 5判
- 部落解放同盟中央本部『全国水平社五
十年史』 部落解放同盟中央本部
1971 pp.189 B 4判
- 『西光万吉著作集』 濤書房 1971～
74
- 第1巻 論文・戯曲
1971 pp.466
第2巻 論文・戯曲・年譜
1974 pp.485
第3巻 論文・戯曲・シナリオ
1974 pp.477
第4巻 論文・戯曲・シナリオ
1972 pp.468
- 木村京太郎『水平社運動の思い出』
部落問題研究所 1972～73 新書判
(上) 悔なき青春 1972 pp.238
(下) 苦悩の半世 1973 pp.274
- 奈良県水平社運動史研究会編『奈良県
水平運動史』 部落問題研究所
1972 pp.421 B 6判
- 川内俊彦編『西郡部落解放運動史』
部落解放同盟大阪府連合会西郡支部
1973 pp.512 A 5判
- 馬原鉄男『水平運動の歴史』 部落問
題研究所 1974 pp.303 B 6判
- 水平社運動に関しては, なお労働運

動や社会運動と関連するところが多い。よって、その項目の文献図書とも参考されたい。また、入門的色彩の図書から70年代になると、かなり専門化した分野にまで及んできた。そして焦点が、水平社運動から学んで、現在の同和問題に対する政策論争が取り上げられるようになったことが注目される。

3 労働運動

水平社運動は、その第1期の徹底的差別糾弾闘争段階から、第2期には労働運動や無産政党への参加という段階に進んだ。もともと部落解放運動は身分闘争に根ざし、経済的・社会的・政治的闘争と関連して推進されたものであるから、はやくから労働運動の一つの推進力の役割を果たしていた。

戦後、とくに70年代になっての注目すべき文献には、次のようなものがある。

日本共産党中央委員会農民漁民部編『今日の部落問題』日本共産党中央委員会出版局 1969 pp.247 B 6判(注、歴史と現況、日本共産党の部落問題に対する政策など、部落解放運動略年表など付す)

八木一男『部落解放運動とともに』部落解放同盟中央出版局 1969 pp.302 B 6判

上杉佐一郎『部落解放と労働者』社会新報 1971 pp.438 B 6判

尾崎勇喜『七〇年代の部落解放運動と民主主義』汐文社 1971 pp.大

266 B 6判

阪同和教育研究サークル編『真の部落解放と教育労働者』汐文社 1972 pp.566 B 6判(注、矢田教育差別問題・「にんげん」・解放教育などを含む)

尾崎勇喜『新融和主義との闘い』汐文社 1973 pp.251 B 6判

藤谷俊雄『現代部落問題研究』部落問題研究所 1974 pp.466 B 6判
新藤東洋男『筑豊の女坑夫たち』部落問題研究所 1974 pp.296 B 6判

小林末夫『在日朝鮮人労働者と水平運動』部落問題研究所 1974 pp.257 B 6判

4 社会運動

部落問題が行政課題として大きく注目されてきたのは、1900年代の当初ごろからであるが、ことに1918年夏の米騒動をもって放置し得ない社会問題となり、学問的にも取り上げられるようになった。山路愛山の『日本人民史』(岩波文庫)にもみえる。以下、管見にふれた文献をみると、次のようである。

柳瀬勤介『社会外の社会 穢多非人』大学館 1901 pp.114 B 6判(注、部落問題資料文献叢書第7巻に収む、なお、この第7巻には「部落問題論叢」として、「解放令前後の諸論議」として、公議所提出議案・賤称廃止の建白書、「明治の部落解放論」と

- して、樊噲夢物語（杉浦重剛）・新民世界（中江兆民）・福岡県下新平民諸子に告ぐ（九州平民会）・新平民の過去及将来（柳瀬勤介）・備作平民会設立の趣旨（三好黙軒）・教育私考（南部露庵）・人種的反感（堺枯川）などを含む）
- 天野卓郎編『前田三遊論集』 世界文庫 1969 pp.293 B 6 判（注、部落問題資料文献叢書第7巻、前田三遊の1903・2月～1924・1月の同和問題関係評論とその小伝・年譜などを収む）
- 『融和運動論叢』 世界文庫 1972 pp.432 B 6 判（注、部落問題資料文献叢書第9巻、融和運動に関する1913～41年にわたる論文37編を収む。各種融和団体の活動・回顧・理論、融和事業完成10ヵ年計画に関する政府の施策要綱などを収む）
- 喜田貞吉主事『民族と歴史—特殊部落研究号』第2巻第1号、日本学術普及会 1919 pp.326 A 5 判（注、部落問題資料文献叢書第5巻『特殊部落研究』に収む。歴史的研究に説苑・地方部落研究や報告などを載す。）
- 岡本弥『特殊部落の解放』 東京警醒社書店 1921 pp.360（注、部落問題資料文献叢書第2巻に収む）。
- 武内了温『融和運動の諸相と宗教』 京都法蔵館 1927 pp.307 B 6 判（注、宗教的立場からの部落解放を論ず）
- 三好伊平次編『融和問題論叢』（前掲）中央融和事業協会 1929 pp.287 B 6 判
- 戦後になって、同和地区の実態調査や歴史的究明をふまえて、部落解放の対策が論ぜられるようになった。
- 上田一雄『未解放部落研究』 汐文社 1956 pp.204 B 6 判
- 奈良本辰也編『未解放部落の社会構造』 部落問題研究所 1954 pp.322 A 5 判（注、奈良県南葛城郡大正村小林部落の歴史的考察と現在の社会構造、それに民俗学上と教育問題を究明した。）
- 部落問題研究所編『部落産業の史的分析』 部落問題研究所 1957 pp.229 B 6 判（注、三重県上野市八幡部落の場合である）
- 奈良本辰也編『未解放部落の歴史と社会』（前掲） 日本評論社 1956 pp.392 A 5 判
- 井上清・渡部徹『米騒動の研究』 第1巻（とくに全国的概要） 有斐閣 1959 pp.503 A 5 判
- 上田一雄編『農村部落の構造分析』 部落問題研究所 1958 pp.126 A 5 判
- 部落問題研究所編『都市部落——その歴史と現状』 部落問題研究所 1959 pp.333 A 5 判（注、三重県松坂市の場合である）
- 『大阪市東住吉区矢田部落調査報告』 大阪府同和問題研究会 1963 pp.350 A 5 判

- 山本登『部落差別の社会学的研究』
部落問題研究所 1966 pp.467 A
5判（注，身分制度と差別意識，人口現象，家族，交友関係，生活水準，差別意識の測定，社会的緊張，社会的性格などの論文を含む）
- 部落解放同盟中央本部編『解放への国民大行進』 部落解放同盟中央出版局 1967 pp.366 新書判
- 大阪市同和問題研究室『大阪市同和事業史』 大阪市同和問題研究室 1968 pp.367（注，大阪市の戦前・戦後の同和事業の歩みから，今後の課題を論ずる）
- 朝田善之助『差別と闘いつづけて——部落解放運動五十年』 朝日新聞社 1969 pp.376 B 6判
- 鈴木二郎『現代の差別と偏見』 新泉社 1969 pp.407 B 6判
- 大阪部落解放研究所編『部落からの告発』 亜紀書房 1970 pp.450 B 5判
- 藤谷俊雄『現代と部落問題』 汐文社 1970 pp.343 新書判
- 馬原鉄男『日本資本主義と部落問題』 部落問題研究所 1971 pp.493 B 6判
- 村越末男『部落問題と解放教育』 部落解放研究所 1971 pp.403 A 5判
- 大阪民主新報編集部編『真の部落解放をめざして』 汐文社 1972 pp.346 B 6判
- 柴田道子『被差別部落の伝承と生活』 三一書房 1972 pp.340 B 6判
（注，長野県下における部落の伝承と歴史，生活と文化，水平社の闘いなどを載せる）
- 村越末男『差別の論理と解放の思想』 明治図書出版株式会社 1972 pp.645 A 5判
- 部落解放同盟中央本部編『解放の父 松本治一郎』 部落解放同盟中央本部出版局 1972 pp.494 A 5判
- 朝日新聞西部本社社会部編『松本治一郎と解放運動』 部落解放研究所 1973 pp.276 B 6判
- 渡部徹・飛鳥井雅道編『日本社会主義運動史論』 三一書房 1973 pp.380 A 5判（注，第7章—秋定嘉和「部落解放運動と共産主義——初期水平社の階級運動をめぐって」を収む）
- 土方鉄『被差別部落のたたかい』 新泉社 1973 pp.317 B 6判
- 部落問題研究所編『水平運動の無名戦士』 部落問題研究所 1973 pp.397 B 6判（注，水平社運動家29名をあげる）
- 小森竜邦『差別と疎外からの解放』 亜紀書房 1973 pp.282 B 6判
- 上田卓三『部落の解放と人間の復権』 明治図書出版株式会社 1974 pp.180 B 6判
- 東上高志『同和教育運動の理論と実践』 部落問題研究所 1974 pp.476 B 6判
- 藤谷俊雄『現代部落問題研究』 部落

問題研究所 1974 pp.465 B 6 判
『部落解放運動とイデオロギー問題』
日本共産党中央委員会出版局 1974
pp.258 B 6 判（注、いわゆる朝田
理論との対決を述べる）

5 その他

現時点、被差別部落問題において、
とくに係争中の2つの問題を無視する
ことはできない。その1つは、1963年
5月に埼玉県狭山市に起こった女子高
校生殺人事件、いわゆる狭山差別裁判
事件であり、他の1つは、同年3月大
阪市東住吉区矢田で起こった、いわゆ
る矢田教育差別事件である。ともに、
部落差別問題の実態、本質にふれる事
件である。これについては、部落解放
同盟狭山中央闘争委員会の編する『狭
山差別裁判』（現時点、26集まで発刊）
があり、

北川鉄男『狭山事件の真実』 部落問
題研究所 1972 pp.351 B 6 判
（注、北川は東京の「石川一雄君を
守る会」のメンバー、東京部落問題
研究所幹事）

亀井トム『狭山事件』第1集 辺境社
1972 pp.350 B 6 判

亀井トム『狭山事件』第2集 辺境社
1974 pp.315 B 6 判

部落解放同盟中央本部編『「矢田 教育
差別事件」とは何か』 部落解放同
盟中央本部 1969 pp.150 B 6 判
（注、部落解放同盟教宣シリーズ
No. 3）

また、日本共産党側（京都の部落問
題研究所側も含む）から、部落解放同
盟側のいわゆる「朝田理論」に対する
論評、これに対する解放同盟側の反論
があり、1969年代以降のそれぞれの出
版部発行の単行本に取り上げられてい
る。同時に、雑誌『部落』・『部落問題
研究』と、雑誌『部落解放』・『部落
解放研究』にも、両者の論争が載せら
れている。

また、1974年秋、兵庫県立八鹿高校
問題が起こり、この紛糾をめぐり、多
くの文献・報告が続刊されているが、
省略する。

なお、大阪の部落解放研究所から、
『部落解放年鑑』が2冊出されている。
1970年版は 1972 pp.651 A 5 版、
1971年版は 1973 pp.739 A 5 版で、
現状・行政・運動・教育・研究・資料
などと分って、その年度の成果を簡潔
に説明していて、手ごろである。近く
1972年版が刊行される予定になってい
る。ちなみに、同研究所から復刻『東
雲新聞』全4巻（別巻1）、融和事業
研究』（全64冊）復刻『融和事業年鑑』
（全16巻）、『奥田家文書』（全15巻）
が刊行されている。

6 おわりに

本稿では、同和教育関係の文献を全
く割愛した。これは本誌の性格を考え
ての筆者の意図によるものであって、
研究者は、ここに掲げた文献となら
んで、同和教育関係の文献も渉猟される

ことを切望するし、また、この分野の文献目録を作成する必要を痛感する。部落解放のための最後の決め手は、同和教育にあると考えるからである。また、ここに掲げた文献は、ほとんど単行本であるが、雑誌や新聞などに掲載された論文や報告のなかにも、見落すことのできないものがある。(なかには、後日、その論文が著書のなかに収めてあるものがある。) 研究者は、文献に付記されている(注)から、その論文や報告の原資料をもみてほしい。

部落問題は、いうまでもなく基本的

人権にかかわる問題である。そしてわれわれが一日も早く日本の社会悪として完全解放に努めねばならない課題である。研究者は、今なおわれわれの社会に生きている部落差別の現実を、社会科学研究の上からも真摯にメスを加え、その解決に大いに寄与すべき任務を背負っていることを自覚しなければならない。

(1975、春)

(注、本文献目録を作成するに当たり、部落解放研究所の湯浅孝子さんにお世話になったことを付記する。)

いよいよ刊行開始——第I回配本入荷 好評発売中

新「マルクス＝エンゲルス全集」

Marx-Engels-Gesamtausgabe(MEGA)

全100巻(予定)

共同編集

ソ連共産党中央委員会マルクス主義・レーニン主義研究所
ドイツ社会主義統一党中央委員会マルクス主義・レーニン主義研究所

平均800ページ 1975年-1995年刊行予定 各巻22,950円
ベルリン・デューツ出版社 (Dietz Verlag Berlin)

《好評発売中／在庫》

Abt.I/Bd. 1:Karl Marx; Werke, Artikel, Literarische Verzeichniss bis März 1843. Text- und Apparateband. 1337 S. 1975 ¥22,950

Abt. III/Bd. 1: Karl Marx/Friedrich Engels; Briefwechsel bis April 1846. Text- und Apparateband. 998 S. 1975 ¥22,950

《刊行予定》 1976年春……第II部第1巻第1分冊 (1. Teil "Grundrisse")

1976年中……第IV部第1巻、第II部第3巻第1・第2分冊、第I部第10巻

日本総代理店 極東書店

東京都千代田区神田神保町2の2 電話03(265)7531番